

とよはらくにちか

豊原国周生誕 190年

歌舞伎を描く—秘蔵の浮世絵初公開！

会 期：2025年1月25日(土)～3月23日(日) *浮世絵版画は総入れ替え
前期：1月25日(土)～2月24日(月・振休) 後期：2月26日(水)～3月23日(日)

会 場：静嘉堂@丸の内 (東京都千代田区丸の内2-1-1 明治生命館1階)

主 催：静嘉堂文庫美術館 (公益財団法人静嘉堂)

開館時間：10:00～17:00 (入館は閉館時間の30分前) ※夜間開館についてはHPをご確認ください

休 館 日：月曜日、全館停電2月2日(日)、2月25日(火)

※2月10日(月)、24日(月・振休)は開館

入 館 料：一般1,500円 大高生1,000円 中学生以下無料

障がい者手帳をお持ちの方(同伴者1名〈無料〉を含む) 700円

HP: <https://www.seikado.or.jp/> X: @seikadomuseum Instagram: @seikado_bunko_art_museum

お問合せ：電話 050-5541-8600 (ハローダイヤル)



(広報用画像1)

豊原国周
「五世尾上菊五郎
の弁天小僧菊之助
極楽寺山門の場」
大判錦絵三枚続
明治22年(1889)

【展覧会概要】

静嘉堂では、三菱二代社長・岩崎彌之助(1851～1908)の夫人・早苗(1857～1929)が愛玩した「錦絵帖」を多数所蔵しており、1996年『静嘉堂文庫の古典籍 第二回 歌川国貞展—美人画を中心に』で主要作品を紹介しました。以来、国貞の美人画コレクションは、高く評価されています。

本展では、美人画と並ぶ浮世絵の二大ジャンル・役者絵に注目します。近世初期風俗画の優品「歌舞伎図屏風」を皮切りに、初期浮世絵から錦絵時代を経て明治まで、役者絵の歴史をたどります。幕末明治は浮世絵円熟期、歌舞伎界では「団菊左」の時代です。浮世絵界の重鎮・国貞でなければ描けない密画の肉筆画帖「芝居町・新吉原 風俗鑑」、その弟子で明治の写楽・国周らの、今摺ったように美しい錦絵帖を初公開致します。歌舞伎を描いた多彩な絵画を静嘉堂コレクションでご堪能下さい。

3つの見どころ

① 歌舞伎を描いた絵の通史を静嘉堂コレクションで網羅できる！

近世初期風俗画

(広報用画像2) 「歌舞伎図屏風」 紙本金地着色 二曲一隻 江戸時代前期(17世紀)

一ややこ踊りの熱気



初期浮世絵

一素朴な味わい!

役者絵の鳥居派

(広報用画像3)
二世鳥居清信
「山下金作の難波
津、二世市川団
十郎の佐野源左
衛門、松本幸四
郎の青砥左衛門」
細判漆絵
享保8年(1723)



錦絵時代

一多色刷りの美

勝川派

勝川春泉
「四世松本幸四
郎、三世大谷広
次」
細判錦絵二枚
続、天明・寛政期
(1781-1801)



大首絵

一ザ・フロマイド

歌川派

歌川国政
「尾上紋三郎
の曾我五郎」
大判錦絵
享和3(1803)



出語図

一裏方さんあつての

リアルな舞台!

鳥居派

(広報用画像4)
鳥居清長
「出語図 三榊徳次郎
の夕霧、四世松本幸四
郎の藤屋伊左衛門」
大判錦絵
天明期(1781-89)



報道各位

プレスリリース

憧れのスターのOFF姿

一菊五郎の夏休み！

梅幸(菊五郎)自作
船の櫓を尾瀬ヶ岬へ沼津から
釣りに出汐も秋の常
思わぬ雨に濡浴衣
空も着かへて清らかな
六夜に月の涼しさに
波打蚊屋に寝釈迦山

(広報用画像5)

豊原国周「五世尾上菊五郎の
大磯禰龍館之図」
大判錦絵三枚続
明治24年(1891)



② 初公開！今摺ったような錦絵画帖—国貞と国周（明治の写楽）

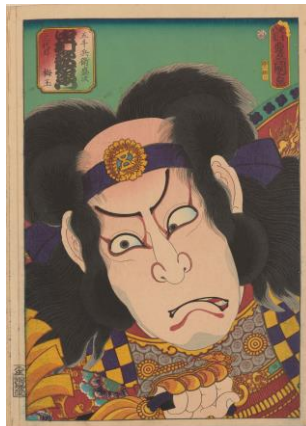
贅を尽くした

渾身の太首絵

幕末・国貞の

錦昇堂版

(広報用画像6)
三代豊国(国貞)
「五斗兵衛盛次
中村歌右衛門」
大判錦絵
文久3年(1863)



VS

明治・国周の

人形町・具足屋版

(広報用画像7)
豊原国周
「五世尾上菊五郎の
柴田勝家」
大判錦絵
明治2年(1869)

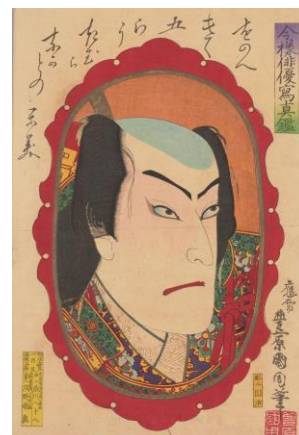


幕末・国貞の押絵鏡 VS 明治・国周の写真鑑



右：三代豊国(国貞)「五世坂東彦三郎の仁木弾正」
安政5年(1858) 大判錦絵
左：同「今様押絵鏡 四世市川小団次の和尚吉三」
万延1年(1860) 大判錦絵

VS



豊原国周「今様俳優写真鑑
五世尾上菊五郎の木村長門守」
明治14年(1881)
大判錦絵

報道各位

プレスリリース

国周の光と影、仕掛け絵の散々



豊原国周「楽屋二階影評判
四世中村芝翫の大善と五世尾上菊五郎の久吉」
明治14年(1881) 大判錦絵
* 明かり障子の向こう、楽屋の様子は影で！



豊原国周「五世尾上菊五郎の小仏小平、実はお岩の君」
明治17年(1884) 大判錦絵
* 早変わりでお岩さんが現れる仕掛けに！

③ 歌舞伎絵の極致！国貞「芝居町 新吉原 風俗絵鑑」一挙公開！



第一図 市村座 表掛

超絶細密画で歌舞伎の神髓を描く！

上質な絵の具を用い、素材の質感までも再現する描写力
は見事。芝居町と新吉原という二大歓楽街の一日を各6
図で、描きつくす。無落款ながら、国貞の作と比定され
た肉筆浮世絵の傑作。

本展では「芝居町」6図を通期で一挙公開。



第三図 菅原伝授手習鑑のうち車引の場



←(広報用画像8) 三代歌川豊国(国貞)「芝居町 新吉原 風俗絵鑑」
一帖(12図)より 絹本着色 江戸時代(19世紀)

《小特集》 蔦屋重三郎

版元・蔦屋重三郎が打ち出した、歌麿やその弟子たち、写楽周辺の絵師たちの作品を展示します。



(広報用画像 9) 栄松齋長喜「難波屋店先」大判錦絵三枚続 版元：蔦屋重三郎
天明～寛政頃（18世紀後半）

* 灯笼に「奉納浅草観世音 願主 蔦屋重三郎」とあり、版元蔦屋が自身を宣伝！



本展注目の二大浮世絵師、国貞と国周

歌川国貞（三代豊国）[うたがわ・くにさだ]

(天明 6-元治 1/1786-1864)

江戸生まれ。姓は角田、名は庄蔵、のち肖造。幼くして初代歌川豊国に入門。画号は一雄齋、五渡亭、香蝶楼など、豊国襲名後は一陽齋など。父庄兵衛は、江戸本所五ツ目の渡船場を経営。

初筆は文化 5 年(1808)の合巻『鏡山菅仇討』、錦絵の上限作は文化 6 年 3 月とされる。国貞時代より晩年まで役者絵、美人画で活躍、特に五渡亭時代に三枚続や大首絵風の美人画に優品が多い。香蝶楼国貞の名では柳亭種彦の合巻『修紫田舎源氏』(1829～42)の挿絵が知られ、これを錦絵化した「源氏絵」は、国貞錦絵の売り物となる。弘化 1 年(1844)、2 代豊国を称すが、今日では 3 代目に数える。錦昇堂から刊行された役者大首絵シリーズは画業の集大成。生涯に描いた作品数は全浮世絵師中、最大数量で、広重、国芳らと共に幕末浮世絵界を牽引した。

豊原国周[とよはら・くにちか]

(天保 6-明治 33/1835-1900)

江戸京橋に生まれる。姓は荒川。通称は八十八。はじめ長谷川派の豊原周信に師事し、役者似顔を学び、羽子板押絵の原図を制作。嘉永 1 年(1848)、三代豊国に入門。画号は一鶯齋、華蝶楼など。美人画・役者絵を得意とし、特に明治 2, 3 年(1869, 70)の人形町具足屋嘉兵衛を版元にした役者似顔大首絵シリーズにより、「役者絵の国周」として知られ、後世小島烏水によって「明治の写楽」と称せられた。また、明治中期の三枚続の大画面に一人の役者の半身像を描く斬新な構図を開拓したほか、写真の流行する時代の影響を受け、陰影法を用いるなど、明治浮世絵に新境地を開いた。83 回引っ越し、妻も 40 回以上かえたという奇行の持ち主。門人に楊洲周延。

【展示構成】

第一章 歌舞伎を描く—役者絵って何？

歌舞伎を描いた絵、つまり「芝居絵」の発生は、慶長年間(1596-1615)、京都での阿国歌舞伎の流行に端を発します。やがて江戸でも芝居興行が始まると、演目や配役を知らせるための芝居番付が、木版墨摺りで作られます。ほどなく鳥居派の絵師たちを中心に、墨摺りに手彩色が施された「丹絵」や「漆絵」が、続いて木版技術の進展により、紅色、草色を中心に三版で表現した「紅摺絵」の手法で、役者の舞台姿、見得を切った様子などが表現されるようになりました。そして明和2年(1765)、多色摺木版(錦絵)が完成すると、実際に舞台で見た憧れのスターがカラフルかつリアルに表現されるようになったのです。それまで形式的であった役者の容姿は似顔で描かれるようになり、観劇の臨場感を透視図法を用いて表現したり、主役だけでなく脇役や裏方、舞台裏までもが主題として描かれるようになります。浮世絵師も、鳥居派のみならず、勝川派や歌川派などが台頭し、切磋琢磨しました。本章では、江戸初期の風俗を描いた屏風絵を筆頭に、歌舞伎役者を描いた浮世絵版画、すなわち役者絵の展開をご覧ください。

第二章 似顔を描く—大首絵

役者絵は歌舞伎役者のブロマイドだと言われます。役者の胸から上を捉えた大首絵は、寛政年間(1789~1801)を中心に、勝川派の絵師や東洲斎写楽、歌川豊国、歌川国政らによって、優れた作品が次々に生み出され、人気を博します。本章では、勝川派、歌川派の大首絵をはじめ、その伝統を受け継ぎ、三代豊国(国貞)が最晩年、錦昇堂から版行した渾身の大首絵シリーズや、その弟子で明治の写楽と讃えられた豊原国周の大首絵までを通覧します。大顔絵とも呼ばれた、役者の一瞬の表情を的確にとらえた大首絵からは、舞台の熱気が感じられることでしょう。

第三章 珠玉の錦絵画帖—国貞・国周を中心に

幕末明治期、多色摺木版の技術は最高潮に達します。錦絵界、特に役者絵では、歌川国貞が三代歌川豊国を名乗り、その弟子・国周が活躍しました。大判三枚続のワイドスクリーンに1枚でも3枚でも絵になるように名場面が役者似顔で描かれたほか、様々な趣向を凝らしたシリーズが次々版行されました。当初、興行に併せて制作された役者絵でしたが、やがて役者見立絵とよばれる、架空の舞台を役者似顔で描く作品も作られるようになります。そして、舞台が先か、錦絵が先か、といわれるほどに、興行と役者絵は親密な関係となっていました。事実、かの有名な白波五人男の弁天小僧は、国貞の錦絵に触発されて脚本が創られ、五世菊五郎の当たり役となったのです。本章では、芝居好きでもあった、岩崎彌之助の夫人早苗の旧蔵品である錦絵画帖より、国貞の安定感ある役者舞台絵をはじめ、国周の新境地である三枚続に大首絵風の役者を配した歌舞伎の名場面の数々をご紹介します。今摺ったように美しい珠玉の錦絵画帖を心ゆくまでお楽しみください。

第四章 肉筆画帖「芝居町 新吉原 風俗絵鑑」—役者絵の神髄

極彩色で細密に描かれた本作は、江戸の二大歓楽街である芝居町と新吉原の情景を6図ずつ、合計12図としたもので、1図が40.8×58.5cmの大画面のアルバムです。芝居町の6図は絵巻のように展開し、市村座の前に人が集まる情景、開幕を待つわくわく感を描いた情景、「車引」の舞台、楽屋の様子、「浅間が嶽」の舞台、興行が終わり皆で宴会する様子、と歌舞伎小屋での魅惑の一日を網羅した、歌舞伎ファンにはたまらない画帖です。さらに役者絵のバリエーションをほぼ描き尽くした、破格の名品です。無落款ながらその描写力などから国貞の作とされた本作は、文字通り役者絵の神髄といえるでしょう。

【報道に関するお問い合わせは】

◆静嘉堂文庫美術館 広報事務局 (共同 PR 内 担当：三井) ※メールでいただけると助かります。

E-mail: seikado-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F

◆静嘉堂文庫美術館 E-mail: press@seikado.or.jp (広報担当：大森) ★展覧会担当学芸員：吉田恵理

E-mail:seikado-pr@kyodo-pr.co.jp
静嘉堂文庫美術館 広報事務局行(共同PR内 担当:三井)

豊原国周生誕190年「歌舞伎を描く―秘蔵の浮世絵初公開!」 2025年1月25日(土)~2025年3月23日(日)
静嘉堂文庫美術館(静嘉堂@丸の内)
【広報作品画像データ申請書】

展覧会の広報を目的として本申請書にてご申請いただいた記事・番組に限り、本展の広報用画像の使用が可能です。本展の会期中であっても別の記事・番組への転用はできませんので、その際には改めてご申請をお願いいたします。ご使用可能期間は本展会期終了までとなります。また、掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、本展終了後、データは速やかに破棄・削除してください。必要事項をご記入の上、E-mailでお申し込みください。E-mailでの送付が難しい場合、FAXでお申込みください(FAX:0120-653-545)

<画像使用全般に関する注意>

- 展覧会名、会期、会場名などの開催概要のほか、指定表記、作家名、作品名、制作年を必ず掲載してください。所蔵元はまとめて1か所ご記載ください。
- 作品画像は全図で使用してください。原則として文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません(画像背景を削除するなどは可能です)。雑誌の表紙などへの使用をご希望の場合は広報事務局までお問い合わせください。
- 概要など確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを本展広報事務局へ1部ご送付願います。

希望	NO.	指定表記・作者名・作品名/画像資料名	制作年/制作年代	所蔵元
	1	豊原国周「五世尾上菊五郎の弁天小僧菊之助 極楽寺山門の場」	明治22年(1889)	静嘉堂文庫美術館蔵
	2	「歌舞伎図屏風」	江戸時代前期(17世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	3	二世鳥居清倍「山下金作の難波津、二世市川団十郎の佐野源左衛門、松本幸四郎の青砥左衛門」	享保8年(1723)	静嘉堂文庫美術館蔵
	4	鳥居清長「出語図 三樹徳次郎の夕霧、四世松本幸四郎の藤屋伊左衛門」	天明期(1781-89)	静嘉堂文庫美術館蔵
	5	豊原国周「五世尾上菊五郎の大磯禰龍館之図」	明治24年(1891)	静嘉堂文庫美術館蔵
	6	三代歌川豊国(国貞)「五斗兵衛盛次 中村歌右衛門」	文久3年(1863)	静嘉堂文庫美術館蔵
	7	豊原国周「五世尾上菊五郎の柴田勝家」	明治2年(1869)	静嘉堂文庫美術館蔵
	8	三代歌川豊国(国貞)「芝居町 新吉原 風俗絵鑑」一帖のうち第三図	江戸時代(19世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	9	栄松齋長喜「難波屋店先」	天明~寛政頃(18世紀後半)	静嘉堂文庫美術館蔵

ご住所	〒
社名/媒体名	社名 媒体名
ご所属/ご担当者名	ご所属 ご担当者名
TEL/FAX	TEL FAX
E-mail	
掲載号/発売予定日	月号(月 日号) / 月 日発売予定 (発行部数 部) <input type="checkbox"/> WEBへの転載あり
チケットプレゼント	<input type="checkbox"/> 読者プレゼントを希望する ※プレゼント内容・数量に関しては別途ご相談となります。応募、当選者選定、発送は貴社でお願いできればと思います。編集部で対応できない場合は広報事務局までお問い合わせください。
チケット送付先	※上記ご住所と異なる場合は記載をお願いします。